

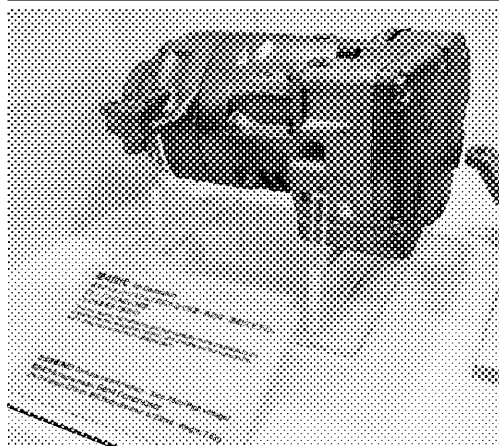
サンデン、新構造採用

次世代電動
圧縮機 静粛性など大幅向上

サンデンは開発中の次世代電動コンプレッサーで世界初の新構造を採用し、静粛性やコスト優位性を大幅に高める。現時点でスクロール式の現行モデルと比べノイズがおおよそ半減し、部品点数は3分の1以下になる見込みという。自動車の電動化に伴う静粛性への要求の高まりに応える。2026年末の商品開発完了、29年の量産化を目指す。

部品数1/3以下に

従来型は渦巻き状の組み合わせた構造。ス「固定スクロール」とクローラの旋回によつて空気圧縮する。静



電動コンプレッサー開発に力を入れる
(現行モデルの第4世代)

静粛性は比較的高い構造 ちやすいため、より静だが、電気自動車（EV）は小さな音も目立つ。圧縮効率を高め、

低コスト化も図る。

新構造の詳細は公表していないが、「電動コンプレッサーでは世界初」（小林英幸副社長）という。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の支援事業の採択を受け、研究開発を進める。

サンデンはEVシフトを見据え電動コンプレッサー開発に力を入れる。

2025年秋にフランスで量産ラインを立ち上げる第5世代は従来型と比べ効率を4%、ノイズは3%、コストは15%改善した。内燃機関（ICE）車向けの依存度を低減する。